

同位体環境学共同研究事業

地球研では、多様な環境物質と多くの元素について、元素の安定同位体比という「指紋」情報を得ることができる実験機器を整備してきました。

最先端の安定同位体比の分析を通じて、地球環境問題の解決に資する研究を「同位体環境学」と呼び、全国の研究者との共同研究を2012年度より進めています。

地球研の実験施設

- ・さまざまな分野の環境研究に対応した18の実験室
- ・個々の大学では維持できない分析装置

(例)軽元素および重元素安定同位体質量分析システム

国内外の研究機関等の連携

国内外の多様な機関と学術交流等に関する協定を締結しています。

- ・国内の大学・研究機関・行政機関:29件
- ・海外の連携機関:22件

大学院教育

2023年度から、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻「総合地球環境学コース」が設置され、博士の学位を目指す大学院生の指導を行なっています。

※2026年4月1日現在、13名の学生が在籍しています。

基盤研究部と連携する4センター

研究所の活動を支えるとともに、国内外の連携をより強化し、地球環境問題に貢献する研究成果の国際発信や人材育成を行なっています。

基盤研究部

- 計測・分析部門
- 情報・企画部門
- 教育部門
- 国際交流部門

連携する4センター

- グリーンナレッジセンター
- フューチャー・アースセンター
- 京都気候変動適応センター
- 上廣環境日本学センター



人と自然、地球環境問題の根源は、人間文化の問題にある。

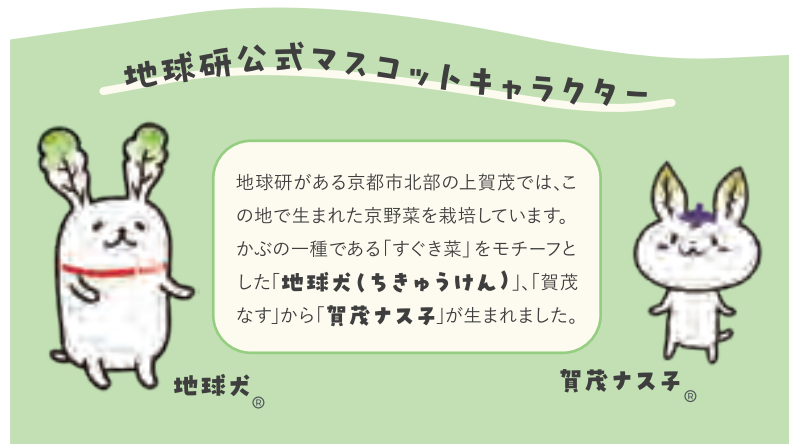
総合地球環境学研究所 所長 山極 壽一

現代は、人間の影響が顕著に地層に残り始めた「人新世」と呼ばれます。地球温暖化、海洋汚染など、地球環境の変化は人間にとって大きな脅威となりつつあり、その対策は待ったなしの急務となっています。

ただ、地球には多様な環境があり、私たち人間も多様な文化に生きてきました。環境問題を解決するにはその多様性に基づいて新たな人間の暮らしを創造する必要があります。

総合地球環境学研究所(略称:地球研、英語名:Research Institute for Humanity and Nature)は、地球環境問題を文化の問題としてとらえ、研究者ばかりでなく、自治体や市民の幅広い参加を呼びかけながら解決策を探る超学際研究を実施しています。2001年に創設され、2004年には大学共同利用機関法人 人間文化研究機構の一員となりました。

文化とは、地域の自然環境に根差した衣食住に反映される人々の暮らしです。そこに息づいている伝統知と、地球環境を改善するための環境倫理を調和させ、分野を超えた学際的なアプローチから豊かな未来へつながる新しい文化と暮らしを創造することが地球研の大きな目標です。



地球研公式マスコットキャラクター



地球犬®

地球研がある京都市北部の上賀茂では、この地で生まれた京野菜を栽培しています。かぶの一種である「すぐき菜」をモチーフとした「地球犬(ちきゅうけん)」、「賀茂なす」から「賀茂ナス子」が生まれました。



賀茂ナス子®



交通アクセス

- 地下鉄烏丸線
京都駅→(20分)→国際会館駅→京都バス 40・特 40系統「京都産業大学ゆき」または50系統「市原ゆき」または52系統「市原経由貴船口・鞍馬・鞍馬温泉ゆき」(6分)→「地球研前」バス停下車すぐ
- 京阪沿線
出町柳駅→叡山電車鞍馬線(17分)→京都精華大前駅→(徒歩10分)→地球研
- 上賀茂方面より
京都バス 32・34・35系統に乗車し、「洛北病院前」バス停下車徒歩10分もしくは、「京都産業大学前」バス停から、京都バス 40・特 40系統「国際会館駅ゆき」に乗車し、「地球研前」バス停下車すぐ

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4
TEL.075-707-2100(代) FAX.075-707-2106
<https://www.chikyu.ac.jp>

地球研

検索



Research Institute for
Humanity and Nature
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所

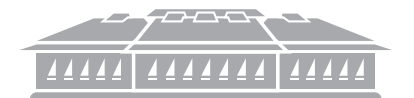
このリーフレットは再生紙を使用しています



2026



Research Institute for
Humanity and Nature
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所



Marlon del Aguila Guererro
"Bright and shine smile" (Cameroon)



地球研とは

総合地球環境学研究所(地球研)は、地球環境問題の解決への貢献をめざした研究活動を進めています。

研究が実社会の問題解決につながるよう、多様な研究者と社会の人々が協力して課題をあぶり出し、新しい枠組みと解決方法を見出そうと、以下の研究に取り組んでいます。

学際研究：人文学・社会科学・自然科学の協働による文理融合
超学際研究：社会と協働した課題解決型アプローチ

※2025年4月1日現在、地球研には研究系職員48名、事務系職員として94名が在籍しています。

地球研の研究活動

プログラム-プロジェクト制

幅広い研究者コミュニティから研究課題をボトムアップで国際公募する共同研究を進めています。

同位体環境学共同研究事業

国内外の研究者が実験施設・装置を利用し、先端的な共同研究ができる環境を提供しています。

地球研は「大学共同利用機関」という国立の研究所です

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

- 国立歴史民俗博物館
- 国文学研究資料館
- 国立国語研究所
- 国際日本文化研究センター
- 総合地球環境学研究所
- 国立民族学博物館

大学共同利用機関とは、個別の大学では維持が困難な大規模な施設設備や膨大な資料・情報を、国内外の大学や研究機関の研究者に提供し、それを通じて効果的な共同研究を実施する研究機関です。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構は、人間文化の研究に携わる6つの機関で構成されています。

プログラム-プロジェクト制

地球研では、いくつかの研究プロジェクトをプログラムで束ねる「プログラム-プロジェクト制」により研究を進めています。研究プロジェクトは、プログラムごとに設定された重点課題に沿って研究を推進しています。

環境文化創成プログラム

プログラムディレクター：松田 素二

地球環境問題の解決のために、先進的な科学技術に頼るだけでなく、科学と文化の接合を通して新しい価値観と生き方の創造に取り組めます。

有機物循環プロジェクト

2024-2028年度 **FR3**

都市-農村の有機物循環とそのシステム構築に関する実践研究
-地域の価値観と科学的知見の融合をめざして-

プロジェクトリーダー：大山 修一

主なフィールド

日本(京都をはじめ各地)、アフリカ
(ニジェール、ウガンダ、ザンビア、ガーナ、ジブチ)



下水汚泥の施用で育ったトウジンビエ
(ニジェール)



SceNEプロジェクト

2024-2028年度 **FR3**

科学とアートの融合による環境変動にレジリエントな在来知の高解像度復元と
未来集合知への展開

プロジェクトリーダー：渡邊 剛

主なフィールド

喜界島、奄美群島



演劇公演(喜界島)



Fashloksプロジェクト

2025-2029年度 **FR2**

地域知と科学との対話による公正で持続的な狩猟マネージメント

プロジェクトリーダー：本郷 峻

主なフィールド

カメルーン、コロンビア、マレーシア(サバ州)、
ガボン、コンゴ民主共和国



散弾銃を担ぎ、熱帯雨林を歩く
アマゾンの先住民狩猟者(コロンビア)



プロジェクトの進み方



土地利用革新のための知の集約プログラム

プログラムディレクター：荏林 幹太郎

社会経済活動や土地利用の変化が及ぼす地球環境への影響を緩和したり、そうした影響に適応したりするため、学際的、超学際的な方法で土地利用を根本的に改革する方法を模索します。

SATOCONNプロジェクト

2025-2028年度 **FR2**

里山のつながりをとりもどす：コミュニティとつくるレジリエントで“ネチャー・
クライメートポジティブ”な土地利用の未来

プロジェクトリーダー：Dwyer, Janet

主なフィールド

英国、ヨーロッパ(ポルトガル、スウェーデン)、スイス、
日本における里山や自然的価値の高いランドスケープ



私有農地と共有半自然放牧地の景観
(英国チャグフォード ダートムア)



多元世界プロジェクト

2026-2030年度 **FR1**

制度、価値、世界観の探究を通じた多元世界的土地利用の探求

プロジェクトリーダー：田村 典江

主なフィールド

京都府、兵庫県、徳島県、愛媛県、長野県、滋賀県



プロジェクトコンセプトグラフィック
「ともに育まれる水田と水路の風景」
© AOI Landscape design



※ **FR1** FR(フルリサーチ)1年目を示します

2001年の設立以来、地球研は53件の研究プロジェクトを実施しています。一つのプロジェクトを構成する共同研究員は、場合によっては150人を超え、これまで4000人以上の研究者が地球研のプロジェクトに携わりました。

現在・過去のプロジェクトの詳しい説明は地球研ホームページへ
<https://www.chikyuu.ac.jp/rihn/activities/project/>



研究プロジェクトは、内部審査と外部評価を経ながら、段階的に研究を深化させることで困難な研究に挑んでいます。

2026年4月1日現在、3つのプログラムの下、7件のプロジェクトを実施しています。

地球人間システムの共創プログラム

プログラムディレクター：谷口 真人

複雑に絡み合う地球環境問題を解決するために、人と社会、自然との連環を明らかにし、ステークホルダーとの共創を通じて未来社会のあり方を追求します。

LINKAGEプロジェクト

2022-2026年度 **FR5**

陸と海をつなぐ水循環を軸としたマルチリソースの順応的ガバナンス：
サンゴ礁島嶼系での展開

プロジェクトリーダー：安元 純

主なフィールド

琉球諸島、ワカトビ諸島(インドネシア)、
フィジー諸島



海洋調査 陸から海への繋がりを測る
(フィジー島北東部 ラキラキ)



Sustai-N-ableプロジェクト

2023-2027年度 **FR4**

人・社会・自然をつないでめぐる窒素の持続可能な利用に向けて

プロジェクトリーダー：林 健太郎

主なフィールド

日本、世界



宮古島市でのイベントで窒素問題を紹介



ECOIPプロジェクト

2026年度 **PR**

エンカレッジ経済に向けて：商品貿易と消費が先住民の土地と生存に及ぼす影響への対処
プロジェクトリーダー：NGUYEN, Tien Hoang

WEDiEAプロジェクト

2026年度 **PR**

災害と開発のワールド・エコロジー
プロジェクトリーダー：ITO, Takeshi